

# 熊本支部報

(社) 日本山岳会熊本支部

No. 21 平成22年7月15日 発行 (社)日本山岳会熊本支部 熊本県合志市豊岡2000-810 松本莞爾方

電話 096-248-4485

発行者工 藤 文 昭印刷ベストプロセス

#### 目

- 1.「山の日」制定運動にご協力を・・・・工藤支部長
- 3. 4月例会「翁草」観賞登山・・・・・加藤 功一
- 5. 山で遭難をなくするために・・・・・工藤 文昭
- 7. 第4回交流登山・・・熊本支部・・・・・安場 俊良
- 9. 今後の行事予定・・・・・・・・・・・事務局
- 11. 日本山岳会通常総会報告 … 工藤支部長
- 13. マカル-BCトレッキンク・・・・・加藤 功一

#### 次

- 2. 干支の山に登る・・・・・・・本田 誠也
- 4. 平成22年度総会報告・・・・・・事務局
- 6. 第4回交流会 · · · · · · 宮崎支部 水永一芳
- 8. 雑感 · · · · · · · · · · · · 石井 文雄
- 10. 全国支部懇談会案内 … 事務局
- 12. 新役員の紹介・・・・・・事務局
- 14. 年間行事計画……事務局

# 「山の日」制定運動にご協力を!

## 支部長 工藤 文昭

一 平成22年度日本山岳会通常総会・支部長会に参加して 一

6/1 2日、東京に於いて日本山岳会支部長会及び第1回通常総会が開催されました。尾上会長も就任2年目に入り、自ら提唱された「日本山岳会再生と復権」への取り組みの成果をあげようと強力に山岳会をリードされておられる様子がうかがえました。現在の日本山岳会は会員の高齢化、会員及び新入会員の減少、それに伴う会費の収入減など多くの問題を抱えています。それらに対応するために、4つのプロジェクト・チームを立ち上げ、昨年からどのチームも精力的な活動が続いています。4つのPT(プロジェクトチーム)の一つ、「公益法人移行」の問題も、今年度中には公益法人を目指し文化省に申請をする方向で進んでいます。これも厳しい国の仕分け基準もあり、極めて複雑な問題が絡んで、今のところどのような結果が出るのか予想できません。

「支部活性化」のPTでは、現会員数5184人の内、支部未加入者が1996名(38.5%)もあり、将来的には全会員は何処かの支部に所属してもらい、それぞれが持っている様々な能力を発揮して、日本山岳会を支える力になって欲しい。それと、各支部とも、今の会員数の10%の新入会員を増やして欲しいとの要望もありましたが、これも支部にとっては難しい問題ですが、努力はしなければと考えております。

昨年、私は北アルプスに出掛けて感じたことは若い登山者の増加でした。20才代の若者も目につくようになり、それも昔から発行されてきた山岳専門誌「山と渓谷」や「岳人」とは異なった内容のアウトドアー誌「PEAKS」、「ランドネ」などの若者向けの雑誌が発行され、その中には色彩豊かで、今までにはなかったデザインの格好良いスタイルの若者モデルが満載され、又、紹介されている山やルートの難易度もやや低く抑えられ、装備、使い方などが紹介され、とて

も格好良く自然の中で楽しく遊ぶ山旅の魅力を紹介しています。メディアに誘導された登山者ですが、この雑誌から抜け出たようなカッコ良い「山スカ族」の登山は、私たちがやってきた「山頂に立つ」登山から、格好いい衣装を着けて、山で遊ぶ、楽しむことを目指しています。熊本の山の店でも山スカートやその他の素敵なギヤーが沢山用意され、結構売り上げもあるそうです。これらの登山者(?)も今のところはツアー会社に取られてしまっていますが、これらのスカ族を如何にしてJACに取り込んでいくのかまで、話は出て来ました。現実に全国的にはこれらの人が、山に登る内に本気で山好きになり、入会するケースもあるそうです

「山の日制定」の運動も、日本山岳会を始め、日山協、労山などの山岳5団体で協力して運動を推進する協定が出来上がり、どの団体でもすでに活動が始まっています。山の日制定PTが集めた資料の中に、皆さんご存知の作曲家船村徹氏の「愛郷無限・山の日制定を」という提言が、栃木の地元紙に掲載され、大きな反響を呼んだ文章の一部を紹介します。

#### 【太古から山海一体】 船村 徹 書

(注 船村徹氏は日本山岳会栃木支部会員です)

『「考えれば考えるほど、何か変な気がしてならないのである。「海があるのに山がねえー」。べつに海のない県の栃木で生まれ育った男の偏見ではなく、自然界の大摂理として、太古から信仰的にも実生活的にも人類にとっては「山海一体」なのであった。

山に降った雨や雪は、森にしみ出して林を流れ下り、村や里をうるおして大河となって、やがて広大な海洋に辿り着くのだ。とどのつまりが山と海とは、親友でもあり、男と女、夫婦以上に深い仲でもあるのだ。山が栄えれば海が喜び、魚は肥える。深山幽谷をほとば

しる水源は神秘の栄養素に満ちて、プランクトンやミネラルなどを運んで、渓谷や湖沼の淡水魚や里の農作物にも幸せを授けながら大海に入っていく。やっぱり山はすごいのだ。「山」が痛んじゃいけない。年をとるごとに恋しくなるのだ。

栃木は山国である。北海道生まれのまな弟子北島三郎などは、今でも「栃木の山並みが見えてくると、ホッとするだよな」としみじみという。過日、所用があり富山県に行った。魚類の豊富な富山湾を、ご当地の人達は、天然のイケスだという。北アルプス最奥の鷲羽岳から湧き出る水滴が源流となって黒部川をつくり、あまたの渓谷を滑りながら、山の滋養をたっぷりと富山湾へと運んでくれる。魚たちは幸せである。

「やっぱりなあ、山と海とは夫婦なんだよな。川は子供みたいなもんさ」。今更ながら、しみじみと私は思った。山を見て海を見る」山がしっかりしていれば、当然美林も育つ。日本では、祖先もみんなこの慣らわしにしたがって生きてきた。木を見て山を見て海を見るのだ。おかしな拝金主義がまかり通っている昨今だが、そんな風潮など下品な者どもにまかせて、神仏が授けてくださった美しい日本の大自然を磨き上げ、孫子の代へと譲り渡してゆきたいとつくづく思うのである。だからこそ、「山の日」の制定が急がれる。』

この文章は、船村節の原点と、山の大切さがよくわかる文章だと思います。総会の最後に発言された、元千葉県知事の堂本暁子氏の言葉、「昔は自分達の楽しみ、自分たちだけの山登りを続けてきた。それが時代の流れ、変化が著しく、登山者も増えてきた。山に登るだけの山岳会から、山を登る、自然を護る、人を守る山岳会へと変わってきた。これからの日本山岳会でも、このような視点を持った会の運営を忘れてはならない」。

総会を締める言葉として私も同感したが、考えてみると、今の熊本支部の運営も同様ではないかと思います。「山の日」制定も、我らのフィールドである自然を守る運動です。どうぞ、船村氏の思いを、自分の思いに替えて、いろんな場面で、自然の凄さ、大切さをあなたの周囲に伝えてください。どうか支部会員の皆様のご協力を宜敷お願いします。

## 1. 『山の日』 プロジェクトの趣旨

2008年11月

わが国土は、7割近くが広い意味での山でありその多くを森林が覆っている。古くから日本人は山を信仰の対象として崇め、森林の豊かな恵みに感謝し、自然とともに生きてきた。山の恩恵は渓谷の清流を生み、わが国を囲む海へと流れ、美しい山なみは豊かな心を育んできた。わが国の文化は、『山の文化』と『海の文化』の融合によってその根幹が形成されてきたといわれている。

わが国においては既に『海の日』が制定され国民 の祝日になっている。にもかかわらず、『山の日』 がないのはなぜなのか、疑問を抱く人は多いと思う。

日本山岳会は、国民祝日としての『 山の日 』の制定を提案する。『 山の日 』は、日々の生活と文化に

結びついた山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、育て、次世代に引き継ぐことを国民のすべてが銘記する日にしたい。夏山シーズン盛りの8月に設定し、その前後にイベントを集中して制定の機運を高めたい。

百年余の歴史を持つ本会は、登山・山岳にかかわる 団体として、高く険しい山への挑戦だけでなく、さま ざまな企画、事業をとおして山への親しみと畏敬の念 を醸成し、自然愛護の精神の高揚を図るよう努めてき た。遠く明治の草創期に「山は人生と深くかかわって おり、大地と人間の関係を極めようとすれば山岳に入 るべきである」と呼びかけた先人の思いを受け継ぎ、 現在の会則にも、「本会は、山岳に関する研究、知識 の普及および健全な登山指導、奨励をなし、(中略) 登山を通じてあまねく体育、文化ならびに自然愛護精 神の高揚をはかることを目的とする」とうたっている。

『山の日』制定の提案はこの目的に沿ったものであり、自然環境の変化が憂慮されるいま、日本山岳会は、さまざまな活動を通じて、山を愛する心を広めたいと思う。趣旨に賛同されるより多くの方々とともに、『山の日』の制定へ、共感と連携、協力と活動の輪を広げたい。

関係各位のご理解とご支援、ご協力をお願いしたい。

### 1日本山岳会の取り組み.

『山の日』の制定に向けて、まずは山と親しみ、楽しみ、山から学び、山の自然を守り育てるプロジェクトを展開したいと考える。日本山岳会の本部と支部が力を合わせ、それぞれの地域、団体、関係者と連携して企画を練り、すみやかに実施体制を固めたい。各支部には、それぞれの地域にふさわしい企画が求められる。

百周年記念事業として展開した「中央分水嶺踏査」は、大勢の会員が参加して日本列島 5000 キロを線で結び大きな成果を上げたが、『山の日』プロジェクトは、その延長線上にあると位置づけ、会員以外のより多くの人たちに参加の輪を広げたい。

会員の高年齢化が著しい当会にとって、この活動は本来の登山活動と並ぶ大きな目標になるとともに、会員相互に連帯感、一体感をもたらすプロジェクトとして取り組みたい。JACの知恵と経験とパワーを結集したい。

# 2. 『山の日』プロジェクト担当者

- (1) プロジェクトチームの立上げ 理事会の下に統括部門としてのプロジェクト委員会を設置する(15名程度)本部7名(関東の3支部及び首都圏を含む。委員長:成川常務理事)支部7名(各ブロック1~2名)
  - ・北海道(札幌) ・東北(仙台)・東海(名古屋) ・京都・岐阜・北陸(岐阜)・関西(大阪) ・ 中国・山陰(広島)・九州(福岡)
- (2)各支部に『山の日』担当者を置く(別紙)、 支部長会と緊密連絡。(東京、関西、東海、 北海道など重点支部の設定が必要か)

## 平成22年度

## (社) 日本山岳会熊本支部・定期総会報告

- 1. 期日 平成22年4月18日 16時~18時15分
- 2. 会場 熊本市花畑町「交通センターホテル」6階
- 3. 出席者報告(事務局)総会出席者 熊本支部会員 22名 会友 4名

委任状 支部会員 15名 会友 14名 合計 熊本支部会員 37名 会友 18名 事務局より、支部規定第13条の規定により、総 会は成立する旨の報告があった。

支部長の挨拶の後、議長選出に移り、参加者の中からの希望及び推薦がなかったため、例年通り、 支部長にお願いするとの提案で承認され、議事に 入る。

#### 4. 議案審議

第1議案 平成21年度事業報告(事務局) 承認

第2議案 平成21年度収支決算報告(事務局) 承認

第3議案 平成21年度会計監査報告(丸尾監査員) 承認

第4議案 支部費値上について(提案 工藤支部長) 承認

3年ほど前から懸案になっていた「支部費」(年2000円)の値上げについて提案理由とお願いがあった。賛成多数で2,000円を3,000円に値上げする事に決定。

第5議案 平成22年度事業計画

資料参照

承認

昨年とほぼ同じ事業の提示があったが、本部の 意向もあり「4つのプロジェクト」遂行のため、 新しく登山技術の研修会等を開催することも 盛り込まれて承認された。

第6議案 平成22年度収支予算 (参照) 承認

第4議案で支部費の値上げが承認されたのに 伴い、予算書のとおり承認された。

第7議案 規約改正

承認

第8議案 役員改正

参照

承認

工藤支部長・廣永委員・安場委員・丸尾委員が 任期満了となり、加えて鶴田委員からの退任依 願があり、本年度の役員選出の執行部案として 総会に提案。昨年度から事業の拡大、活発化が 計られ、役員の増員をお願いすることになった。

午後6時15分 定期総会閉会 (予定 16:00~17:00) 以上、定期総会の報告とします。

#### 収入の部

費目	2 1 年度 決算	2 2 年度 予算	差異	備考
前期繰越金	277, 280	174, 825	<b>▲</b> 102, 455	
支部助成金	102,500	110,000	△7,500	2 5 0 0 <b>*</b> 4 4
支部費	154, 000	219,000	△65、000	3000* 73(夫婦 会員7組)
公益事業費	318, 000	400,000	△82,000	参加費その 他
雑収入	42, 776	175	<b>▲</b> 42,601	
合計	894, 556	904,000	△9,444	

#### 支出の部

費目	2 1 年度 決算	2 2 年度 予算	差異	備考
通信費	69, 199	50,000		
振込手数料	4, 720	4,000	▲19199	
印刷費	188,300	120,000		支部報 30000× 4回
事務局雑費	10,000	10, 000		
会議費	6, 551	5,000	<b>▲</b> 1,551	
事務消耗品 費	95,083	50,000		
公益事業費	305,244	400,000	<b>▲</b> 68300 94756	登山教 室 2 回・研修 会 3 回
交際費	26,474	20,000	<b>▲</b> 6,474	
予備費	15, 160	10,000	<b>▲</b> 5,160	
当期合計	720, 731	669, 000	51, 731	
次年度繰越 金	173, 731	235,000	61175	
合計	894, 556	904,000	<b>▲45083</b> 4	



おきな草と根子岳

# 平成22年度 熊本支部新役員

顧問		西澤	健一	4427	
顧問		本田	誠也	5421	
顧問		神谷	平吉	10185	
支部長		工藤	文昭	8190	重任
常務委員	事務局	松本	莞爾	8411	
委員	自然保護	廣永	峻一	10080	重任
委員	事業担当	加藤	功一	11771	
委員	事業担当	安場	俊郎	13889	重任
委員	事業担当	石井	文雄	13852	
委員	事業担当	木曾萬	萬喜治	14308	
委員	事業担当	田北	芳博	14459	
監事	監査委員	松岡	啓子	14561	
永年会員		西澤	健一	4427	
永年会員		馬場	猛	4943	

# 新しい委員の紹介

#### 木曽 萬喜治 (事業) 14308



#### 石井 文雄 (事業) 13852



若かりし頃の5年ほどの 冬の北アルプスが懐かしく 思い出されるが(黒四ダムから扇沢へのトンネル内を、岩盤から大量の水が滴り落ちる破砕帯の下、徒歩で二往復出来た後「黒部の太陽」の映画が出来た)。我が家の大蔵省の下で緊縮財政の生活になり、一応元気で山に行かせてもらっています。古い凝り

固まった頭で、微々たるお手伝いが出来るかと思い、 委員を引き受けました。

# 田北 芳博 (事業) 14459



平成19年9月に本会に 入会、以後支部の活動に無 欠席という記録を持ってい る。自身の山行記録も昨年 1年間で51座の山頂を踏 んだ。職場の写真部に属し、 山の写真を中心に数多くの 作品を撮り続けている。

今年度から支部の役員と して、各事業の中心的役割 を担っている。

#### 松岡 啓子(監事) 14561



# 今年度退任される方 大変ご苦労様でした

委員 自然保護 鶴田佐知子

監事 会計監査 丸尾龍一

# 会員・会友動静

☆ 横尾 健二 会友から会員へ移行 2010年2月4日 本会員へ移行

会員番号 NO14673 そ 今友から会員へ移行

☆ 千々岩泰子 会友から会員へ移行2010年4月1日 本会員へ移行

会員番号 NO14675

☆ 坂西 直明 会友として 2010 年 3 月入会

☆ 佐々木美枝子会友として 2010 年4月入会

# 干支の山に登る

5 4 2 1 本田 誠也

今年の『干支の山』は芦北町の虎石山に登った。 虎石山は、大関山から北に張り出した尾根の末端に あり、2.5 万図「大関山」に山名の記載はあるが何 処が山頂かわからない山である。前回(1998.2.15) は広い尾根を手分けして探し回ったが、それらしい ピークを見つけることが出来なかった。今回は、担 当委員のお陰で迷わずにお目当ての三角点を踏む ことが出来た。虎石山(IV 400.3m)の山名は「四 等三角点の記」では「庵ノ山」となっているが、当 時、丸山地区の集落で古老に聞いたが首を傾げて知 らないと云われた。県道(天月~湯浦)の町道分岐 点(庵ノ山線)から南西へ山道を登り詰めたところ で、私にとっては12年余も不明だった三角点と対 面することが出来た。山名の由来になったと思われ る虎の形をした岩を捜しながら長い尾根道を登っ たが、それらしいものは発見できなかった。九州で 虎の字がつく山名は他に見当たらないので、次回も この山に来るとしても、95歳になっている筈の私 が再訪することは難しいだろう。今回も多くの会員 の助けをうけてやっと歩けたのだから・・・・ 熊本 支部が干支の山に登りだしたのは、1997年(丑年) の牛ノ峠(宮崎県都城市)からだった。私は今西錦 司先生から十二支会の話を聞いて興味を持ち、1992 年(申年)から干支の山登山を始めた。1994年1 月、福岡県若宮町の犬鳴山では、十二支会の人達と 出会い入会を薦められたこともあった。支部恒例の 干支の山登山が今後いつまで続くかわからないが、 今までの記録を次表にまとめたので、会員の皆さん の参考に供します。

#### 干支の山・登山記録

子	(鼠)	1995.12	2	鼠 山・882m	菊池市木護	2名
		2008.	3	鼠ケ岩・552m	出水市	11名
丑:	(牛)	1997.	3	牛ノ峠・918m	都城市	16名
		2009.	3	牛頸山・448m	大野城市	20名
寅	(虎)	1998.	2	虎石山・400m	芦北町	13名
		2010.	3	虎石山・400m	芦北町	31名
卯	(兎)	1999.	1	卯の鼻・774m	阿蘇市坂梨	8名
辰	(竜)	2001.	1	竜峰山・517m	八代市	47 名☆
巳	(蛇)	1993.	9	蛇ノ尾・754m	阿蘇市	18 名☆
午	(馬)	2002.	1	馬見山・978m	甘木市	47 名☆
未	(羊)	2003.	7	後方羊蹄山・18	93m 北海道	6名☆
申	(猿)	1992.	1	猿駈山・968m	大分県	2名
				猿 岳・847m	高千穂町	2名

西 (鳥) 1993. 1 鶴掛山・468m 芦北町 1名
2005.11 鶴見岳・1375m 別府市 31名☆
戌 (犬) 1994. 1 犬ケ岳・1131m 福岡県 3名
2006. 5 犬鳴山・584m 若宮町 3名☆
亥 (猪) 2007. 5 猪ノ岳・943m 多良木町 8名

☆印は本田会員及び熊本電友アルコウ会山行



虎石山(400.3m)の四等三角点



2010年 支部「干支の山」(虎石山にて)

# 22年度(平成23年3月)の干支の山 阿蘇外輪 「卯の鼻」

来年の干支は卯の年です。干支にちなんで 阿蘇外輪の坂梨にある「卯の鼻」(774m) に登ります。

☆ 坂梨からの登山ルート
☆ 外輪からのハイキングルート
の2コースを予定しています。卯の年生まれの
方は是非ご参加下さい。

# 4月例会 「おきな草」観賞登山

期日 平成22年4月25日(日)

場所 阿蘇「小堀牧」「二束牧」「泉牧」 参加者 リーダー 加藤功一・加藤百合子

加藤明・工藤文昭・石井文雄・田北芳博・安場俊郎・松本莞爾・松岡栄治・松岡啓子・横尾健二・横尾妙子・田中朝子・島添健輔・島添佳代子・金山春男・井上禮子・舛田レイ子・米村由紀子・渥美久仁子・菅隆雄佐々木美枝子・椿千鶴・野田一郎野田婦人・富野薫水・豊野沙英流稗田喜代美・安場夫人 29名

平成22年度の第1回目の例会山行で29名の参加者を得て,満開の「おきな草」の観賞を 堪能した。今回は貸し切りバスを利用しての 例会山行で加藤明会員と合流し、緑の牧草地 帯を花を求めて散策した。

お目当てのおきな草は草原のあちこちに見られ、可憐な姿を堪能し、楽しい一日をすごした。途中、景色の素晴らしいところで、工藤支部長の講話があり、阿蘇の歴史や、草原の成り立ち、七鼻・八石の話しに皆感動した。



高岳をバックに工藤支部長の講話を聞く



根子岳をバックに記念撮影

# 山での遭難をなくするために 支部長 工藤文昭

そんな高校時代の部活動の中で、彼女なりに山の魅力に取り付かれ、高校卒業後は関西の大企業に就職した後も、会社の山岳部に入り、山を登り続けていた。退職後は熊本に帰り結婚、嫁ぎ先の家業に専念し、3人の娘さんを授かり、子供達が自立し、母親の責任を果たすと、又、若い頃の山の魅力を思い出し、登山と下すと、又、若い頃の山の魅力を思い出し、登山と下のか、水曜日の店休日には1人で山に登る取りになった。私がそのことを知ったのは、彼女が登りになった。私がそのことを知ったのは、彼女が登るとになった。1人で登るというので、それは危険だからと、ある山岳会を紹介したが、入会後の日曜日の例会には皆勤、水曜日は、他の会員と休みが合わず、やはり一人で出掛けていたようだ。

20年6月16日も1人洞ヶ岳に出掛けたのだが、 この時も家族には何処の山に行くことも告げず出掛 けており、夜になっても帰らないことから警察に捜索 願が提出された。私に連絡があったのが翌17日の昼 頃だった。警察はあちこちの登山口の駐車場の車を探 したが見つからなかった。そのうちに国交省の御船町 入り口のカメラで同所を通過した事が確認された。大 雨の降りしきる中、洞ヶ岳の駐車場で車を発見した時 は、あたりはすっかり夜の帳に包まれていた。県山岳 連盟救助隊にも出動してもらい、直ちに捜索に出掛け ようとしたが、警察の許可が出ず、翌朝4時から捜索 を始め、50分も歩いて権現神社に着き、犬の鳴き声 に導かれて進むと、岩壁の下で、変わり果てた彼女を 発見できた。同行していた犬は足の骨折はあったもの の、遺体の近くで2晩も主人を護り続け、我々に遭難 現場を教えてくれた。たぶん彼女は犬を抱いたままダ イビングして、犬は軽傷ですんだのではなかろうか。 警察の検視が終わり、遺体の搬出にかかる。私も阿蘇 での漕難救助で何人も遺体を担いで搬出した経験か ら、遺体と対峙することにも自分が恐ろしいほど慣れ っこになり、極めて事務的に行動していたが、教え子

の遺体を担ぐときは、心が潰れるような事故の重さが のし掛かり、止まらない涙と、降りしきる大雨に打た れながら、登山口で遺族に遺体を引き渡した。あれか ら、毎年、この日には遭難現場に出掛け、遭難ケルン に花を手向け彼女の冥福を祈り、自宅での法要にも出 かけ、末席から彼女の死を悔やんでいる。

この遭難では、彼女が身を賭して残してくれた山登りの掟があるように思う。先ず、自分が何処の山に登るのか等、計画が全く残されていなかったので、初動捜査が遅れてしまったこと。洞が岳は、997mと高い山ではないが、ルートはわかりにくく、危険な山でもある。現在は、数多くのガイドブックが出回っているが、どの本にもこの山の危険性を紹介した書籍はない。彼女の場合は、登りか下りで、獣道に入り込み、岸壁の上で行きつまり、道迷いによる転落遭難だったと思える。自分が登る山の情報も不十分ながら、1人で出かけたことも良くなかった。山に登るときには、その山について研究し、経験者のアドバイスを受けるとかして、情報を集め、計画書に類するものを家人に残すことが絶対必要だ。

先日、警察庁から山の遭難件数が発表されたが、昨年度はついに遭難者数が 2000 人の大台を超えた。そのうち 80 数%が中高年者。遭難の態様別では、道迷い、転倒・滑落が大部分を占めている。

本来、山には素晴らしい魅力があるが、山登りはリ スクがつきまとう行為である。商業登山全盛の時代で はあるが、登山者自身にこのリスクについて自覚が薄 れてきているようでならない。現在、中高年者の登山 人口は増加するばかりだが、車社会、道路の整備で山 は近くなり、山小屋の整備、優れた機能を備えた装備 の開発、氾濫する山のガイドブック、携帯電話の普及 など、山を取り巻く環境は激変し、山に行きやすくな った。しかし、山が持つ危険性は一つも変わらず、一 瞬の登山者側のミスから多くの遭難事故を招いてい る。山は素晴らしいところだから、多くの人に登って いただきたい。しかし、山を登るためには、それぞれ が、体力、気力、技術、判断力を持ち、それ等を使い こなし、行動中は、登山のリスクに対する警戒心を一 時も忘れない事を絶対守られねばならないと思う。 ツアー登山でも、とにかくリーダーに付いて歩けば、 地図もいらない、天気の判断も心配ない、すべておま かせの登山者に遭難は多発している。集団登山でも、 行動中はリーダーがいつも登山者1人1人のそばに付 いているわけではないので、自分自身の責任と判断で 行動することを忘れてはならない。

熊本支部の今年度の事業計画の中で、登山教室の他に、登山研修会も3回ほど組み込んでいる。そのような機会に、一つでも山登りのセオリーを身につけていただきたい。

熊本支部員の遭難事故は熊本支部設立の1年後、33年7月に、初代会長北田正三さんが、阿蘇鷲ケ峰に登頂後、竜尾根を下山中に松ケ尾谷源頭部に滑落された事故で亡くなられた。北田さんは昭和4年に鷲ガ峰を中心とする北尾根を最初に完全踏破されたり、その前年には初の根子岳完全縦走もされて、誰もが阿蘇の

主と認める人だった。阿蘇の岩場に関しては、わが庭程に知り尽くしておられたはずだが、竜尾根は岩場も脆く、やせ尾根でもある危険な場所とはいえ、北田さんのホームグラウンドでの遭難死は起きた。単独行でもあり、更に近くに登山者もなく、遭難を目撃した者もいず、遭難の原因は定かではないが、とにかく事故死されたことは事実である。その後、支部員はこの事故を教訓として 山登りのリスクを忘れることなく50年以上も登山は続いているが事故は発生していない。

県内でも今年の6月は2日続けて遭難事故が発生した。一つは国見岳に登り、下山ルートを間違え、翌日の夕方まで森林内を彷徨い続けたが、幸運にも生還できた。この方も行き先がわからず捜索が混乱した。その翌日の鷲が峰の遭難事故は第2キレットを越えたところで命のザイルを解いたことが命取りになった。ベテランの慢心が死を招いたのだろうか。遭難事故ほど肉親、友人、多くの関係者を悲しませ、これ以上の悲惨な出来事はない。一度山に入ればベテランも新人でも同じで、山の厳しさを忘れてはならない。楽しみは山を下りてから、安全な無事故登山を目指して、それぞれが精進しなければならない。遭難事故の原因の殆どが登山者の側にあるのだから・・・・。

# 登山計画書は (単独行の生命線)

たとえグループ山行であっても「登山計画書」 はきちんと提出すべきだが、特に単独行の場合 は、それが生命線となることもある。いちばん困る のは「ちょっと、山に行ってくる・・・」と言い残して ひとりで出かけてしまうケース。これではいざとい う時、家族としてもどうしようもない。 中高年の 登山に限らず、登山行動に入る前の交通機関で の事故や、思いがけないトラブルもあるので、留 守宅には必ず行き先を報せておくことは、いざと いうときの捜索時間の短縮になって、早期の解 決につながる。 携帯電話の普及により、いつで も連絡が付くだろと「安心感」があるようだが、実 際には山中では携帯は使えないことが多いこと を知っておく必要がある。

# 第4回宮崎支部交流登山

日本山岳会熊本支部 支部長 工藤 文昭 担 当 安場 俊郎

期日 平成22年5月6日~7日(土~日) 登山 酒呑童子・八方ケ岳 交流会宿泊 山鹿市菊鹿 恵温泉

宮崎支部会員との交流登山は今年で4年目を迎えます。第1回目は熊本の鞍岳・ツームシ山。第2回目は熊本の雁股山・目丸山。第3回目は、宮崎の双石山・霧島獅子戸岳。今年は熊本県がホスト役となり、酒呑童子山。八方ガ岳にご案内することとなりました。宮崎支部からは、男性会員8名、女性会員7名。熊本支部は男性会員11名、女性会員3名、その他日帰り組が2日間で5名で、総計34名の参加がありました。

5月6日は午前10時、菊池市隈府菊池神社下 の道の駅集合、歓迎の挨拶のあと、宮崎支部はマ イクロバス、熊本支部は5台の乗用車に分

乗して立門経由で酒呑童子山登山口へ向かいました。カキノキズル登山口で準備体操のあと、熊本支部の石井会員の先導で登山開始。頂上まで、ミツバツツジ、石楠花の花を愛でながら、約1時間半の行程で頂上に到着。残念だったのは、宮崎支部会員の2名の方が、長旅の疲れからか、体調を崩され、途中の小鈴越から下山されたことでは、ペースに問題がなかったかと反省です。頂上では、津江の山々、九重、阿蘇、福岡の山々の展望を楽しみながら、山名あてなど

の会話が盛り上がりました。頂上には当会以外には登山者はなく、貸切状態。昼食、記念撮影のあと、往路を下山。宿泊先の「恵温泉」には午後4時過ぎに到着、菊鹿町自慢の温泉を堪能してもらえましたでしょうか。

6時半から、お楽しみの夕食を兼ての懇親会、遅れて参加の工藤熊本支部長も加わって、両支部代表の挨拶のあと、乾杯、山を愛する会員同士の交流を深め合って、9時過ぎ万歳三唱のあと散会しました。

5月7日は晴れ、午前7時「恵温泉」を出発。 八方ガ岳の矢岳キャンプ場登山口から登山開始。 渓谷沿いの自然林の登山道の爽やかな空気に包まれ、盛夏、子供達が遊ぶ、天然のウォータりしたスーダーの滝を眺めなよう配慮した。途中、りった場とであるようで歩めるようであると、当時間の中のは近路を明れていた。 東を踏むこと、台形の度遮るものない眺望を楽本の上からは、360度が、当日は黄砂のため、本のできないできないにはからないできるのですが、当日は黄砂のため、本の見えるべき、雲仙や有明海等をお見せできなかっ たことが残念でした。

下山は番所方面へ下りましたが、登りと異なり、 桧や杉の植林地の山道を、全員、事故もなく林道 に至り、林道歩き30分ほどで、キャンプ場から の登山道と合流、3時頃には、登山口に到着し、 次回の再会を約しつつ解散しました。



第4回熊本支部・宮崎支部交流登山 宮崎支部 事務局長 水永一芳 (No13662)

#### 五月晴れの酒呑童子山

第4回熊本支部・宮崎支部交流登山は、新緑と五月晴れの5月8日(土)~9日(日)大分県日田市に位置する酒呑童子山(1180.5m)と熊本県山鹿市の八方ヶ岳(1052m)で行われた。

宮崎支部は、多田山行委員長以下14名が参加し、1日目は、06:15分マイクロバスで宮崎を出発。宮崎自動車からR443・325号線を通り09:20分、集合場所である熊本県菊池市菊池物産館駐車場に到着する。既に熊本支部、安場俊郎リーダー以下18名が到着しており歓待を受ける。

物産館でにぎりなど買い物をして、10:00分より 開会式。安場俊郎リーダーの歓迎の挨拶で始ま

り行程の説明を受け、熊本支部会員の車両を先頭にR387号線を目標の酒呑童子山へと向う。宮崎支部のマイクロバスには、熊本支部の名ガイドの廣永俊一会員が同乗。酒呑童子山は、昔、山城で鬼がいたとの伝えや、近隣の山々の花の名所などの説明を受け、日田市に入り上津江フィツシングパークでトイレ休憩。11:00分カシノキズル登山口に到着する。出発前に熊本支部特有の号令で準備体操後登山開始する。

登山口から急登が続き、登山道にはフモトスミレが可愛い花をつけている。さらに登っていると、新緑の中の鮮やかなシャクナゲの花に目を奪われ、ソウシ鳥の囀りが春たけなわであることを告げている。

12:30分酒吞童子山山頂に立つ。視界は五月晴れの最高。久住連山から由布岳、阿蘇山系の山々と第1回の交流登山で登った鞍岳の眺望に感動する。このすばらしい展望の中で昼食と記念写真を撮り、13:

15分山頂出発、往路を1時間30分で下山する。 下山後、マイクロに乗り込み宿泊先である「恵温泉」 に向う。16:00恵温泉に到着し、ゆっくりと汗を 流す。

18:00分から懇親会に入り、工藤文昭熊本支部長の歓迎の挨拶、会員同士の自己紹介、会員ほとんどが1年ぶりの再会とあって話が盛り上がり、焼酎「白岳」の味も格別であった。このため、部屋を変えての二次会まで盛り上がり、山への語らいは尽きなかった。熊本支部会員勇士の海外登山に挑戦する日頃のトレーニング、四季山々の写真帳など拝見して、感動と感激を受け、交流会登山の意義深いものを再認識させられた。

#### 新緑に癒された八方ヶ岳登山

2日目は05:00分起床、天気は快晴。朝食をすませ07:00恵温泉を出発。

廣永俊一会員の説明で、八方ヶ岳は山頂から八方の 展望ができることから山名がついたとのこと。

07:40矢岳渓谷キャンプ場着。登山準備をして「矢岳渓谷野鳥の森」看板から入山、川沿い林道の八方ヶ岳登山口から入り、新緑の緩やかな樹林帯の登山道、標高差約600メートルを3回の休憩をとり11:00八方ヶ岳山頂に立つ。山頂の展望は山の名とおり、久住連山・阿蘇山系の眺望に感動する。

早めの昼食となり記念写真撮影して下山開始。山の神登山口へと下山していると向かいの山壁にミヤマツツジが緑に包まれたコントラストがすばらしい。さらに、登山道から見下ろす新緑の樹林帯に感動、会員の中からため息が漏れる。加えてオオルリの囀りなど自然の世界と人間社会との違いを実感する。約2時間で登山口に下山したが、7時間余りの行程もリーダーの計らいで全員無事踏破することができた。矢岳渓谷キャンプ場までは、イタドリやヤマウド採りを楽しみ、二日間にわたる交流登山は終了した。

日本山岳会は「再建と復権」実現のため、4つのプロジェクトの一つに「支部の活性化」が掲げている。今回の交流登山も支部の活性化に貢献していると信じてやまない。

熊本支部会員には登山を通じて、自然からの体験 人への繋がりを体得させて頂いたことに御礼と感謝 申し上げ、来春は宮崎の山々を堪能していただく ことを期待したい。

# 雑感

#### 13852 石井 文雄

最近は五家/莊方面の山に入りたいと思い、他の山行の合間に出かけているが、梅雨の時期になり、崖崩れ等にて車が入れなくなりはしないかと、心配である。まあ、急がず焦らずのんびりと構えて行くことにしよう。平家山から国見山、球磨川源流の山々、他に脇目の山等が多くて先へ進まないが・・・・

又、最近は口蹄疫の関係で、翁草観察の時のように 気兼ねなく、阿蘇の草原を歩くのも控える必要があり、 早い終息を願っているところである。それにしてもな んと広い草原が牧畜の一役を担っていたかがわかり 

# 今後の行事予定

第3回登山研修会

#### 【公益事業】

7月11日(日)第1回登山研修会 三角岳 9月26日(日)第5回登山教室 湧蓋山

9月下旬第2回登山研修会10月中旬第3回脊梁縦走登山11月下旬森林巡視登山

1 1 月中旬 【共益事業】

8月下旬 夏期例会 (ビ-ルパ-ティ-)

11月3日宮崎ウエストン祭9月26日脊梁トレイルラン11月3日金峰山マラソン

# 平成22年度全国支部懇談会の案内

1. 担当支部 東京多摩支部

- 2. 期日 22年9月5日(日)~6日(月) ※9月4日~5日(午前中)支部長会議
- 3. 会場 京王プラザホテル多摩
- 4. 日程 5日午後 支部活性化全国大会懇談会 夜18:30 懇親会

6日 高尾山往復登山(現地解散)

- 5. 参加費 19000円 7月31日 🗸 切
- 6. 申し込み 東京多摩支部事務局

〒190-0003 東京都立川市栄町 5-50-18 山本憲一方 TEL 042-537-3457 (事務局へもご連絡下さい)

#### 他支部の記念行事

- 東九州支部創立50周年記念式典11月6日(土)~11月7日(日)「大分」
- 北九州支部創立10周年記念式典 10月31日
- 宮崎支部創立25周年記念式典 以上の行事については事務局まで問い合わせ下さい



# (社) 日本山岳会支部長会議 第1回通常総会報告

熊本支部長 工藤 文昭

開催日平成22年6月12日会場日本山岳会ルーム・四谷主婦会館

#### (1) 21年度末の会員数

名誉会員:18名(対前年度末比-4名) 永年会員:240名(対前年度末比+51名) 終身会員:130名(対前年度末比-10名)

通常会員: 4569名(対前年度末比-167名) 青年会員: 8名(対前年度末比±0名)

夫婦会員:137名(対前年度末比-2名) 団体会員:82団体(対前年度末比-1団体) 計 5184名 (対前年度末比-133名) 内、新入会員 99名、対前年比+9名、

復活会員 2名、対前年比-1名、

※平成21年度物故会員 57名(前年度比-2)※退会者 132名(-14)除籍者 36名

### (2) 総会・支部長会議での会長挨拶

現在のJACの問題点・・・・会員減少、新入会員の減少、会員の高齢化、それに伴い会費収入減。JACのあらゆる問題点はここから派生している。

それに対応するべく4つのプロシェクトチームを作ったが、作業は順調に進んでいる。特に公益法人化への取り組みは莫大な仕事量となり、事務局の体制強化が必要となる。事務局長を設ける。

- ・ 「クライミングボード付き新ルームの建設」を 考えている。資金的(2億円ほど)にはかなり 厳しいが、若者の取り込みのためにも、また支 部増のためルームが手狭になったことが建設の 要因となる。会員からの大口資金の提供を期待 し、今年から取り組み準備にはいる。
- ・ 51回年会費を納めると永年会員になり、会費 支払いが免除されるが、個人的に余裕のある方 は、いくらかでも良いので納入を継続してほし い。(あくまでも個人の意志で)
- ・ 秩父宮山岳賞には、登はん賞がないので、JA Cの山岳賞を新設したい。
- ・ 海外登山隊を出したい。若者を増やし、支部を 活性化し、JAC・YOUH活動の取り組み、技術 研修会へのプロの指導者を派遣する。
- (3) 公益法人化移行について(吉永理事) 今年12月頃を目途に公益法人を目指すことで、文 科省に申請したい。

日本山岳会は昭和16年に社団法人になりました ので、約70年ぶりの見直しになります。

- ・ 平成25年12月1日までに、公益法人か、一
- ・ 般法人かを選択しなければなりません。もしそれをしなかったら、1ヶ月以内に解散に追い込まれます。
- ・ 現在、公益法人は25000団体、現在申請中 の団体は592件 内1団体は不合格
- ※ 公益のメリット・・・・山岳会の社会的評価を得る。優遇税制の適用収益事業の実施可
- ※ 公益のデメリット・事業費の50%以上を 公益に支出(現在54.1%)。事業の自由性が縛 られる。会全体の連結決算となり支部助成金制 度の廃止。等
- ・一般法人の場合・・・・会独自の活動が自由に出来る。 社会的評価がやや低下する。現在のJACの財 産(3億3250万円)を公益関係で放出する。 (財産の流失)優遇税制が無い。

本部としては、公益法人の認定を目指して努力している。 来年始めに申請して「公益法人等認定審査委員会」の判定を受ける。

#### (4)「山の日」制定について(成川理事)

山岳5団体と協力して、国民運動を展開しながら、数年をかけて超党派の国会議員団を立ち上げ、2013年頃には国会で審議されるようにする。チラシを作成したので各種の機会に配布しながら「山の日」制定の意義を理解頂き、多くの賛同者を増やしてもらいたい。

# (5) 支部活性化について (神崎理事)

・ 会員数 5184名 支部加入 3188名 支部未加入1996名 より多くの会員が、いずれかの支部に所属して、 JACの活動に参加する。そしてそれぞれが持っている能力を会のために発揮してもらう。いずれは、会員はどこかの支部に所属する事を義務づけたい。

#### ・ 堂本元千葉県知事(理事)の挨拶

「昔は自分たちの楽しみ、自分たちだけで山登りを続けてきた。それが時代の流れ、変化が著しく、一般の人の参加が増えるようになった。山に登るだけの山岳会から、山を登る、山を守る、人を守る山岳会に変わってきた。これからは、日本山岳会でも、そのような視点を持った会の運営を目指すべきではないか。」

日本山岳会のエリート意識から、「座して死を待つ」姿勢より、広く登山者を、自然を大切にする山岳会として、活動しなければ成らないと思った。

# マカルーBCトレッキング報告書

## 加藤 功一

# 未踏の6,000m峰を求め、マカールBCへトレッキング。

- 1. 期 間 2009年10月19日~11月9日
- 2. メンバー 加藤功一、ガイド1名
- 3. 宿 泊 ロッジ又はテント
- 4. 行動日程

カトマンズ出発・・・・10月19日 マカルーBC着・・・・10月28日 カトマンズ着・・・・・11月 9日

- 5. トレッキング結果
  - (1) 未踏峰として、マカルー3峰、4峰、5峰があるため、私に登れるかどうかを調査したが、いずれの峰も岩山で難しく、私には登れないことがわかった。
    - (2) このコースはトレッキングルートとしては、困難 なルートで、尾根を行くため毎日1,000m位の 登り下りがあり、たいへんきつい。
    - (3) 今回は一人なのでロッジ泊で行ったが、毎日同じ 食事(朝:チャパティ、昼:ヌードル、夜:ダルバ ート(ネパール定食))で肉はなく、これを20日 間食べ、いかなる私でも根をあげた。
- 6. トピックス
  - (1) カトマンズ空港で、改札が済み空港バス乗ったが、スチュワーデスが電話をしており30分過ぎても離陸しない、何をいつまでも話しているだろうと思っていたら、車内に向かって「乗客に日本人名があるが、日本人はいらっしゃいますか」と、たずねたらガイドが私を指差した、スチュワーデスが噴出して笑った、私は完全にネパール人に間違われたかと、笑ってしまった。
  - (2) マカルーBCから、上部のコルまで登ったら、下に テントが見えた、まだヤク飼がいるのかな?と思い 近ずいてみたら、草の上 に油絵が2枚ある、風で看板が飛んで 来たのか と、思っていたら人が現れた「私は日本の画家で

と、思っていたら人が現れた「私は日本の画家です、ここでマカルーを描いて、あと3日したらエベレスト方面へ移動します」とのこと、「私はこんな所を歩く日本人は私だけかと思っていましたら、こんな所で日本人に会うとはびっくりしました」と挨拶。「私も60の手習いで油絵を描いています」と話も弾んだ。

#### 7. 行動記録

10月19日 (月) 晴れ カトマンズ〜ツムリン タール〜カンドバリー カトマンズ空港発 1 1:40 ツムリンタール 着 12:20 ツムリン



タール発 (ジープ) 13:20 カンドバリー着 14:35 (1,485m) ホテル泊

今日の午後、他4名も日本へ帰国するが、私は一足 先にマカルートレッキングへ出発する。ガイドは、 これまでプーチエン・ヒマールでキッチンをしてい たサンベサンである。カトマンズ空港で、ネパール 人と間違われて飛行機のフライトが30分も遅れ たことは先に書いた。ツムリンタールの飛行場は、 20年前に写真で見たのと同じ芝生の滑走路だ。ツ ムリンタールからジープに乗ったが、これまで見た



も指名されて踊った少女の踊りは、声が掛けられる だけあって素晴らしかった。夕食時ビール1本飲む。

村々で踊り競うや秋祭り 秋祭り家々回り福を呼ぶ 秋の昼勉強しながらヤギを追う 青々と段々畑に稗実る 秋の沼人見て逃る蛙かな 枯木借り色鮮やかな蘭の花 秋夜長隣室電話耳につく 秋の山赤く咲くやアライチかな 親子してアライチ取るや秋の朝 ヒマラヤの道端に咲く蘭の花



石ころ道でダンス

10月20日(火) 晴れ カンドバリー~チララ カンドバリー発 7:40 チララ着 :15:20 (2,260m) ロッジ泊

ずーと尾根上を歩く、昨日着いたツムリンタールの滑走路が緑色に輝いていた。チララは2,260mあり、夜は少し冷える、しかし、外ではクツワ虫が鳴いていた。夜中、ロッジの主人が電話していた、会話は英語を流暢に話していたのに感心した。

10月21日(水) 晴れ チララ~メン

チララ発 7:20 メン着 13:00 ロッジ泊早く着いたので、2Fでゆっくり休憩する、広場では若者たちがバレーボールやサッカーをして遊んでいた。谷向こうには左からカンバルン、ガウリンサンカール、マカルーが遠望された。イスパイヤの3人のトレッカーと話す(これからの道中度々顔合わすことになる)ロッジへ寄宿している少女2人は、夜も勉強していた。

10月22日 (木) 曇りのち晴れ メン〜セドア メン発 7:20 セドア着 12:50(1,940m) テント泊

メン (1,910m) から谷底 (オウンコーラ (1,10m) は下り、サドア (1,940m) まで最初テントは私だけだったが、後からヨーロッパ人隊がテントを張った、彼らが先に食堂を専用したので、私の食事が遅れ腹が立った。19時になって、ガイドが「スープにしましょうか?」と言ったので、ますます腹が立って「もう食事はいらない」と言って寝た。

急坂や花をちぎり汗を拭く オウン河シプトン渡れし古き橋 秋の山日して800m登り降り 蝉時雨花を枕に昼寝かな 段々畑手の平ほどの稲田かな テント寝や月は輝きクツワ虫 ジャガイモの煮っ転がしや朝の食



オウンコーラの橋

10月23日(金) 晴れ セドア〜タシガオン セドア発 6:55 タシガオン着 12:55(2, 525m) テント泊

途中、アライチ(噛タバコの原料)を運ぶ人に沢山会う、「重さはどの位か」と聞いたら「50kg」と。このあたりの山にはアライチが多い、この辺りセドアの少女との特産物のようだ。アライチを鎌で刈っている親子に近づき写真を撮って、お礼にアメをあげたら、も51A(子供)を呼んだので3個あげた(チャッカリしている)。途中で頭を金髪にした洒落た青年が追い越して行った、こんな山の中に東京の銀座から来たようなかっこうをしていた。

(タシガオンのロッジの息子と、後でわかった) 樹林 帯でシダ類が多く、ふだんは樹上にしかない蘭が、目の前に咲いていたので写真。タシガオンは最後の集落であり、農家が多いが、近代的な家(ロッジ)が3軒が目立つロッジ裏にテントを張り、洗濯をする。イスパニア隊3名もあいかわらず同行している、通りしなに「カトウさんですか」と言われびっくりした。なん

でだろうと思ったら、私のザ ックにKATOを書いてあ るからだ

。テントの中で小説「ここだけの女の話」田辺聖子を読んでのんびりする。1週間歩いたので明日は休養とする。



道端に蘭の花

10月24日(土) 晴れ、タシガオンで休養テント泊 テントで本を読んで過ごす、退屈すると外に出て村の 子供と遊ぶ。彼らは朝から山に竹を切りに行き、竹を 束ねたものを引張って昼頃に下りて来た。午後は、マ カルーから下りて来た3隊がテントを張り賑わう。

1 0月25日(日) 晴れ、タシガオン~カウマ タシガオン発 7:15 カウマ着 14:30(3,92 0m) テント泊

竹を切りに行く子供と一緒に 出発、途中で子供達と写真を撮って遊ぶ、カメラを持たせると、奪いあって写真を撮った。だんだん慣れてくるとチンチンを 出して見せるなど30分程ジャレで遊んだ。お礼にボールペンを4人にプレゼントした。



きつい登りを野イチゴを食べながら歩く、

3,200mを越すと紅葉となる。 高度が3,900mで夜は寒いので、冬用の長袖に着替える、夏テントで寒くて寝れないのでホッカイロを靴下の中に入れた。

休養で身体爽やか秋の朝 老木に化粧するや蘭の花 秋の山竹切に行く童かな 竹を取る子供と遊ぶや秋の山 ミミズクや4900mの森の中

10月26日(月) 晴れのち雲り カウマ~ドーバットカウマ発 7:15 シプトン・パス 11:40(4,505m) ケラ・ラ 13:15(4,660m) ドーバット着 14:10(4,155m) テント泊シプトン・パス、100年前にシプトンが越えた峠、久しぶりに360度の展望だ、東にカンテェンチュンガは遠望、西にはガウリンサン・カールの連山、残念ながらエベレストは見えない。湖があり素晴らしい眺めだ。ドーバットへの下りはシャクナゲの密林となっている(今は花はない)ドーバットにはロッジは1軒しかない、ここに4隊が来たので満員、しかたなく2隊は1時間程先のテント場へ下った。夏テントで寒いので、ロッジからマットを借りて敷いた。

鰯雲シプトン峠我越えん 秋空やシプトン越えし峠かな 秋の空勇姿マカルーやどこまでも 雲切れ間赤く染めるや草紅葉

10月27日 (火) 晴れドーバット~ヤクカルカ ドーバット発 7:25 ヤンガルカルカ 13:00 ヤクカルカ着 15:50(4, 300) テント泊

ドーバットからいっきに谷(オウルンコーラ)へ下る、それから谷沿いに登るとマカルー方面の山が見え、いつものトレッキング気分を味わう。ヤンガルカルカは広い所で、トレッカーで賑わっていた、ここで昼食(ヌードル)とする。ヤクカルカはロッジが1軒、若夫婦と赤ちゃん。こんな高いところに赤ちゃんがいるのにびっくりした。今日の泊りは私だけのようだ。テントが寒いので着るものを全部着込み、キャンバスバックを被って寝た。

紅葉路八日目にてマカル一見ゆマカルーを削りて白きオウン河

10月28日 (水) 晴れ ヤクカルカ〜マカルーBC ヤクカルカ発 7:20 ランゲルカルカ 9:40

マカルーBC着 14:15(5,055m) テント泊 ランゲルカルカでヤクの尾で作ったハタキを見て「いくらか?」と聞いた「500ルピーなら帰りに買う」と話した。近くに婆さんがいたので写真を撮った、チベッタンの着物を買わないかと持って来た。マカルーBCの手前で少女が追い越した、BCのロッジの手伝いに行くようだ。 この服は似合うよ買わないか。

空にマカルーファミリー白く輝くマカルーの間を流る秋の川霧の野辺ヤク飼い母子耐えて住む友想う秋風寒しマカルーBC

10月29日 (木) 晴れ マカルーBC~マカルーBC マカルーBC発 8:15 5620m 1 2:20 マカルーBC着 14:45 テント泊 マカルーBCで休養予定であったが、BC周辺は何 も見るものがなく、天気も良いので奥のBCまで行 くことにした、途中でガイドを帰し一人で行動した 先にイスパニア隊が見えたが、あまりに急峻できつ いのでBCへは断念しマカルー3峰の登路調査に 切りかえた。5,620m地点から3峰を見たが、 急峻な岩壁で登れそうにない。下を見るとテントが 張ってあるのが見えた、まだヤクの放牧をしている のかな?とテントの近くに6号位の絵が放置され ていた、テントから男が現れ「私は日本の画家です」 と言う、「私も日本人です、絵が落ちていたのでび っくりしました、こんな所で日本人に会うとは」 「今はマカルーを描いています、あと3っ日したら エベレスとへ移動します」とのこと。名刺交換をし てお互いの旅の安全を誓いあった。(男・50才代) 小野克之氏、東京、51才 ポーター3名





マカルーBCロッジのスタッフと 10月30日(金) 晴れ 帰路 マカルーBC〜ヤンガ ルカルカ

マカルーBC発 8:20 ヤクカルカ 14: 30ンガルカルカ着 16:00 テント泊朝から鳥の鳴き声(コジュウケイ、キュンカー)を聞く、同行していたイスパニア隊も今日から下るそうだ。2日間マカルーをじっくり見たがモルゲンロートは少なかった。ヤクカルカで休憩し、赤ちゃんのオムツを替える若い婦人の写真を撮った。肉がなく栄養失調気味だったので、ヤクの肉を焼いて食べた、美味しかった。また、ヤクの尻尾で作ったハタキを550ルピーで購入した。マカルートレッキングは10日間も歩いて、マカルーが見えるのは2日しかないので振り返りじっくりと見た。夏テントなので夜は寒いので、ロッジからマットと毛布を借りた。

仲秋やマカルーふところ2晩かな 秋の旅イスパニア人道連れに 秋晴れやマカルーは今日でお別れ 草紅葉キジを打ちつ歯を磨く 紅葉のマカルー見納め目にうつす

10月31日 (土) 晴れ ヤンガルカルカ〜ドーバット ヤンガルカルカ発 7:20 ドーバット着 14:3 0 (4150m) テント泊 ヤンガルカルカからは谷を半日下ると谷は終わりでマカルーは見え全山シャクナゲに覆われた登りとなる、天気は良いし一人でのんびり歩く。ドーバット下のキャンプ地の苔の絨毯の上で昼寝、極楽。夜は寒いので、持っている物は全部着て寝た。

紅葉のマカルー惜別カメラに手 秋晴れや振り返り見るマカルー峰 秋日浴びモウセン苔に昼寝とや

オムツを替える若い母



11月1日(日) 晴れ ドーバット~カウマ ドーバット発 7:20 ツツラ 10:15(4 490m) シプトンパス 11:45(4340m) カウマ着 13:00 (3885m) テント泊 マカルーがだんだん見えなくなる 全部着て寝た のに寒かった、特に月が沈んでから朝までが長く感じ た。これまで同行していたイスパニア隊は、テントの スペースが無いため、上のテント場へ上がったようだ。 カウマまでは、尾根上を歩くので左側(東) 遠くにカンチエンジュンガが見えた。カウマのロッジ サウニ(女主人)と男の子(10才位)の二人で、行 く時と比べて静かなロッジでは、子供が母に勉強を教 えてくれとせがみ、ムシロの上で勉強していた。 サクニから、タシガオンには父母がいる、父はパー マ・ヤムジーと言いエベレストに登った有名なシェ ルパだと聞いた。ガイドがカトマンズへ携帯電話し たのにびっくりした、日本より便利だ。

草紅葉山の湖に良く映える 朝日浴び赤く輝く草紅葉 秋の道行きも返りもイスパニア 紅葉に見えし隠れしマカルーかな 秋の庭子が親に勉強せがむ



カウマのサウニ(女主人)と

1 1月2日 (月) 晴れ カウマ〜タシガオン カウマ発 7:35 タシガオン着 12:30 (24 90m) テント泊

夜中ミミズク、朝コケコッコウで目覚め、毎日12時間も寝るので夢の種もなくなり、思わぬ人が出て来た

りする。ヒマラヤでは夜をどうしのぐかも苦になる。 日が沈むと満月が出る、月が沈むと太陽が昇る。テン トは寒いので早く太陽が出てくれないかと願った。朝 からチャパティ2枚しか食べていないので力が入ら ない、腹が空くと怒りっぽくなる今日の昼食には目玉 焼き、ツアンパ(日本で言えばソバきり)それにスー プと久しぶりに美味しくたべた、お礼に100ルピー あげた。ポカポカアのテント内で身体を拭き、髭も剃 ってすっきりした。タシガオンには他のトレッカーは 誰もいない、酒の肴のトウモロコシを焼いてもらった。 行く時に遊んだ、竹を運ぶ子供達と遊ぶ。マカルート レッキングは尾根から谷へ、谷から尾根と繰り返す、 高度差も大きいのできつい。また、殆ど森の中を歩く ので景色はあまり見えない。10日間のうち山が見え るのは2日位で、工程もきついため一般向きではない。 私としてはマカルーが見れたことと3・4・5峰が調 査できたことで満足。タシガオンではパーマさんの娘 が遊びに来た、東京吉祥寺に住んでおり、今は里帰り しているとのこと。胸の出るシャツを着た美人だ、こ れなら銀座を歩いてもおかしくない。こんな綺麗な娘 が人里離れた(カトマンズから1週間) タシガオンに いるのが不思議だ。

秋の嶺カンチエンチュンガは雲の上 ヒマラヤ道シェルパ家業でロッジ建つ 静けさや落ち葉の音聞く山の道 果物欲し苺食べ食べ山下る

# 11月3日 (火) 晴れ タシガオン で休養 テント泊

朝から竹引きの子供たちがテントを覗いて、竹取り に行った。テント場の下で、牛で畑を耕していたの で、いい写真が撮れないか場所を変えながら、20 ~30枚撮った。すぐ下の集落に行き、コドの収穫 で庭いっぱいに干してあった、近くで爺さんが孫の 子守をしていたので、写真を撮らせてもらった、快 く撮らしてくれた。暇なのてテントの外にマットを 敷き寝転んで本を読む石に腰掛けた爺さんがいた ので「パーマ・ヤムジーさんか」と聞いたら、「自 分だ」と言った。あとでロッジの女主人に聞いたら 「ヤムジーはヤクの世話で山にいる」とのこと。よ うわからない。ネパール女の喧嘩を聞く、ヤムジー さんの夫人(自分のロッジ2階のベランダから)相 手(隣ロッジの若奥さん?)両方の距離は20m位 言い争いの内容はわからないが大きな声で双方が どなり合う、それを近所の男どもが黙って聞いてい る、相撲での審番員のようだ、言い争いは終ったが どちらが勝ったかわからない。(ひょっとするとシ ョーみたいなものか?または鶯の鳴き比べか?)日 本から帰国中の美人の娘は従兄弟2人と、これから カウマへ姉に挨拶に行く、と従兄弟に荷物をいっぱ い背負わせ、自分はサングラスをかけ銀座でも歩く 格好だ「姉によろしく」と伝言した。ロッジの若サ ウジー(主人)と話す。名前 Nima Dorc hi Sherpa (ヤムジーの息子) カトマンズ のタムセルクトレックに所属している、マカルー、 カンチエンチュンガエベレストを登った、と言って いた。住所とEメールを聞いた。

「人間至高の愛などありや、一日の労働の果てをただ ねむりゆく」 栗野英子

ここだけの女の話 田辺聖子 を読んだ

秋の畑よくしゃべるとやネパール女 秋立つや最奥の村に金ぴか娘 ネパール路や日永一日ごろ寝かな 山の道秋の日差しに蛇渡る



1 1月4日 (水) 晴れ タシガオン〜メン タシガオン発 7:15 セドア 11:00〜11: 50 (昼食) オウンコーラ 13:40 メン着 1 6:40 (1500m) テント泊

タシガオンでゆっくり休養ができた。タシガオンを振り返りながらゆっくり下る。畑では農作業で忙しくしている、子供も手伝っていた。再びオウンコーラへ800m下り、またメンへ800m登ることになる、田んぼでは稲刈りが始まっていた、若い婦人が子供と赤ちゃんをあやしながら稲刈りしているのを見て、自分が子供の頃を思い出した。メンにはイスパニア隊の3名が先に着きビールを飲んでいた。往路のロッジには、ロシア人が一人泊まっていた。ヌンの高度は1500m、やっと寒さの世界からのがれ、クツワムシも鳴いていた。近くの広場ではバレーボールして遊んでいた、ロッジの姉妹にペンとノートをプレゼントした。

秋深しタッガオン村去りがたし 紅葉のあい間に咲くや寒桜 秋の暮家族総出で稗を摘む 山の子ら10時を回り学校へ 山下る再び暑い夏が来た 山降りて心暖まるクツワムシ



11月5日 (木) 晴れ メン〜チチラ メン発 7:20 チチラ着 14:50(1440m) テント泊

チチラは賑やかな街で、ちょうどマオイストの集会があっていた、バイクに赤旗をたてデモしていた。

秋月夜夜鳴きする児に想い出し 山降りて鈴虫聞けば和むなり 段々畑乳児あぜ置き稲を刈る 山の道紅葉の間にマカルーかな 稲刈りや段々畑の上と下 行き戻り旅の道ずれイスパニア 山おんな喧嘩と思いき話かな ヒマラヤや稲刈る頭上に寒桜

11月6日(金) 晴れ チチラ〜ガンドバリー チチラ発 7:20 ガンドバリー着 12:45 ホテル泊

ガンドバリーへは尾根をどんどん下る、遠くにはツム リンタールの滑走路が見える 途中、トントントンと 綺麗な音がするのでなんの音だろうかと思っていた。 行って見る、発動機の音で、中で精米をしている。主 人に「音がいいね」と言ったら「音が出るマフラーを 自分が発明した」と自慢していた。

トレッキングを始めたガンドバリーへやっと辿りついた、初めて飲むビールが美味い。

## 旅の感想

- 1. とにかくマカルーのルートがわかった。
- 2. マカルーを正面に見れた。
- 3. 山中で東京の画家と会った。
- 4. タシガオンの住民との触れ合い。
- 5. 一人でゆっくり山を見れた。
- 6. マカルーの未踏峰 (3・4・5峰) はいずれ も難しい、自分には登れない。
- 7. 地元住民は親切で優しい。
- 8. ロッジが完備されていないので、一人でのロッジ食は難しい。
- 9. 一人だと、夕食が最後となり、キッチンフタッフと一緒にダルバート食となる。
- 10. ルートは尾根が主体で、谷を越したりで1日 の登降差が1000mにもなりきつい 本格的なトレッカーでないと無理。

#### ガイド評

- 1. 昼食の予定を言わない、黙っていれば食べそ こなう。言えばクラッカー1袋。
- 2. 洗濯は自分が先にし、干し場を占有する。
- 3. シャワーは自分が先にして、黙っていた。
- 4. ガイドとして、お客さまへのおもてなしが足りない。
- 11月7日 (土) 晴れ ガンドバリー〜ツムリンタール ガンドバリー発 8:40(ジープ) ツムリンタール着 10:10(795m) ホテル泊

おんぼろロジープ、運転席へ4名、身体をくねらせて 我慢する。これでも私が外人だから助手席に乗せてく れたのだ。後部は満員、一丁びらの服装も土ほこりで 真っ白。しかし、ジープはどんなにおんぼろでももする。 いと感心した。オーロンホテルとする。ホテルにはカ ナダ人の男性が一人、今日カトマンズへ飛ぶそうだ、 リタイアして時間が取れたので一人で(ガイドなし) トレッキングしている。エベレストBCからレンジョ パスを越えルクラへ、ルクラからツムリンタールで水 いて45日間かかった。ツムリンタールは丘の上で水 がない。雨水を使用している。洗濯すると言ったら、 水をバケス1杯持ってきた、これですすぎまでするそ うだ。

#### 最悪路ジープで下ればやはり楽 ネパール路や蚊帳におさまる街の宿

11月8日(日) 晴れ ツムリンタール休養 ホテル泊 ツムリンタールは何もするのが無い、散髪へ行ったら 先客がいたのでホテルへ帰るシャツ1枚では寒い、シュラフへもぐり、昼まで寝た。ガイドヘランチは12時と、昨日指示してOKと言った。12時になってガイドが「ランチは何を食べますか?」と聞いてきた。私はてっきりランチの時間です、と言ってくるものと思っていた腹が立った。「昨日、ランチは12時と言

ったろ、君は食べたのか」「私はダルバートを食べました」ランチ12時の受け取り方の相違か?がっかり。 疲れていると何でも腹が立つ。

11月9日(月)晴れ ツムリンタール〜カトマンズ ホテル泊

ホテルで主人とティーを飲んでいた男が「散髪は?」と言う、主人が「この人は散髪屋だ」と教えたので散髪に行く。壁に貼ってある写真を見せて「どれにするか?」と「これにする」鼻歌まじりで

カットし、写真とは 違う坊主みたいに短 くカットしてあるが 仕方かたない。「いく らか?」と聞いたら 「ジャパンプライス」 と言う。昨日地元 の人が20ルピー払



っているのを見ていたので「80ルピー」でOK。

秋晴や家庭の水は雨だのみ トラクターネパールの悪路ひた走る ドンキーや枯れ草を食み療養中 空港の稲の向こうにマカルー峰

11月10日~12日 カトマンズ後整理 13日 カトマンズ空港~インチョン空港 14日 インチョン空港~福岡空港

## 反省会 (加藤、大津、シャルマ)

- 1. 私とガイドでロッジ宿泊での旅したが、このルートはまだロッジが完備されていないため苦労した。
- 2. 山の中のロッジは2階がベッドとなっている、 回りが石積で風が通り寒いので利用しなかっ た。他の隊もテント使用でロッジはスタッフが 使用していた。
- 3. ロッジの食事は、朝 : チャパティ、昼 : ヌードル、夜: ダルバートで、栄 養失調になりそう キッチンは多人数



のパーティーが使用するので、一人者は最後となり、ロッジのスタッフと一緒に食べることになり、せっかく早く着いても最後まで待つことになり不満。

- 4. このような状況のため、よほど慣れた者でないと苦情となる。ビギナーには不向き。
- 5. 今回はポーターは雇わなかった。もしポーターがいれば泊まり場が心配となる。
- 6. やはり、楽しくトレッキングするためには、 キッチン同行が適当と思った。

# 秋の道苦し楽し20日間

# 支部事業

# 平成22年度熊本支部年間行事一覧

期日	対象	事業名	会場	備考	担当
4月18日(日)	会員・会友	支部通常総会	交通センターホテル	懇親会	松本
4月25日(日)	会員・会友	例会山行	阿蘇:青年の家〜二東牧 〜泉牧	翁草観賞	加藤功
5月8日~9日	会員・会友	宮崎支部との交流登 山	酒天童子山(8 日) 八方ケ岳(9 日)	山鹿市菊鹿町 「めぐみ温泉」	安場
5月中旬		全国支部長会議	日本山岳会本部	東京	支部長
6月13日(日)	会員・会友・一般	森林保全巡視登山	南外輪:地蔵峠~駒返峠	清掃登山	廣永
6月27日(日)	会員・会友・一般	第4回登山教室	俵山:萌の里~俵山	一般募集	安場
7月11日(日)	会員・会友・一般	第1回登山研修会	登山の基礎・三角岳	公益事業	加藤功
8月下旬	会員・会友	夏期例会・ビールパー ティ			事務局
9月初旬	会員・会友・一般	第5回登山教室		公益事業	木曽
9月下旬	会員・会友・一般	第2回登山研修会	気象・地図の見方	公益事業	田北
9月		支部長・事務局会議 (東京)			
10月初旬	会員・会友	第3回九州脊梁全山縦 走登山		公益事業	
10月中旬	会員・会友	第3回九州脊梁トレ イルラン協力			
	会員	第26回全国支部懇 談会			
11月3日	会員・会友	第26回宮崎ウエス トン祭			
11月3日	会員・会友	金峰山系三山マラソ ン大会協力			
11月6日	会員・会友	九州 5 支部集会	東九州支部担当		
1 1月	会員・会友	森林保全巡視登山		公益事業	廣永
1 1 月	会員・会友・一般	第3回登山研修会	安全登山	公益事業	石井文
1 1 月	会員・会友・一般	海外登山報告会		公益事業	
12月	会員	年次晚餐会(東京)			
12月	会員・会友・一般	山の写真展		公益事業	
1月	会員・会友	支部新年晚餐会			
2月	会員・会友	2月例会登山			
3月	会員・会友	干支の山登山	卯の鼻 坂梨外輪山		
毎月第3火曜日	役員	支部委員会	わくわくランド	子飼橋際	

#### 事業に参加予定の方は、担当委員又は事務局までお申し込み下さい

7月の例会登山 7月11日(日)第1回登山研修会「三角岳」参加者21名 担当加藤 功一

9

**編集後記** 今年になって、いろんな事がありました。天候は不順だし、早春なのに真夏のような気温になるか思ったら、明くる日は10度も気温が下がり、体調を崩された方も多かったのではと思います。4月には宮崎の口蹄疫が発生し地元の畜産農家はもとより、近県の農家もかなりの不安があったものと思います。やっと終息の気配が見えたものの、その被害は計り知れないと思います。関係ある皆様にお見舞い申し上げるとともに、頑張って再建されることを祈念致します。牧場を持つ熊本の阿蘇地方でも草原は立入禁止になり、6月に予定していた、登山教室や森林保全巡視登山も自粛して取りやめましたが、ここまで影響があるとは過去に経験のない事でした。今後の会の予定もこれらの状況を見ながら、活動をしなければなりませんが、皆様のご理解とご協力をお願いし、早期の終結宣言を待ちたいものです。